

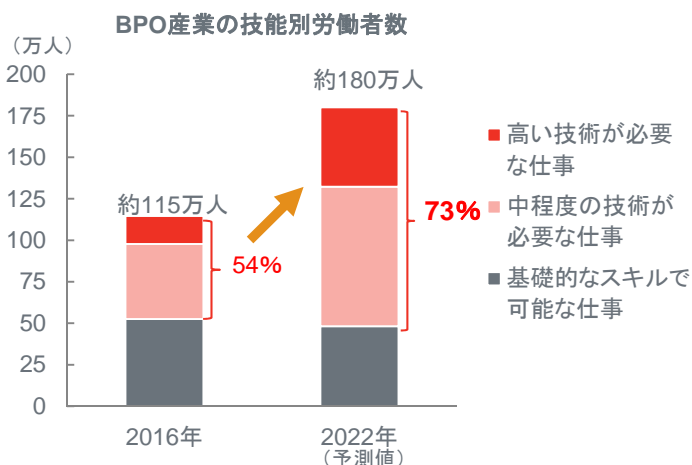
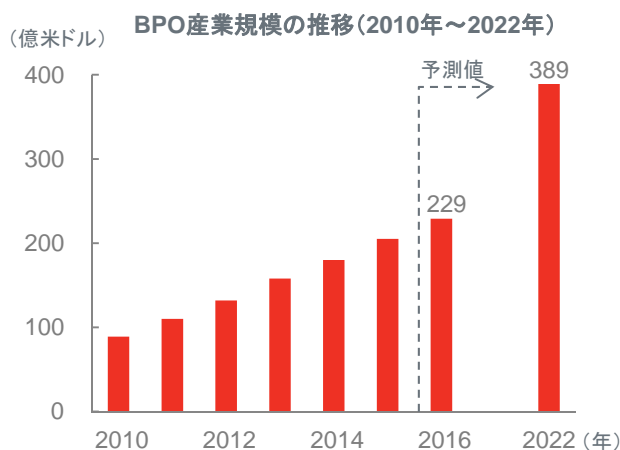
Eastspring Asia Now

Vol.9 発展を続けるフィリピンのBPOビジネス

eastspring
investments

コールセンター業務から高付加価値サービス産業へ

- ▶ フィリピンでは英語も公用語であることから、コールセンターなどのBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング、業務受託)産業が、雇用創出、所得向上、消費拡大を通じて国内経済の牽引役となっています。フィリピンのBPO産業の規模は、フィリピン経済のもう一つの柱であるフィリピン人海外就労者からの送金金額を上回るペースで成長しており、2022年には約390億米ドルまで拡大する見込みです。
- ▶ 最近では首都マニラにおけるオフィス賃料の上昇等の理由から、ダバオやセブなど、マニラ以外の都市にBPO企業が拠点を構える動きが活発化しています。昨年3月にはフィリピン政府・関連団体がIT・BPO産業の新興都市として10の地方都市を選定するなど、国の支援を受けてBPO産業の拠点がフィリピン全土に拡がり始めています。



出所: フィリピン情報技術ビジネス・プロセス協会へのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成

より付加価値の高いサービスを拡充、AI・オートメーションに負けない産業を目指す。

- ▶ フィリピンでは、AIやオートメーションといった技術革新に対抗すべくBPO産業の高付加価値化を進めています。フィリピン情報技術ビジネス・プロセス協会が昨年10月に発表した「IT-BPM Roadmap 2022」では、主力のコールセンター以外にもIT・ソフトウェア開発、ゲーム・アニメーション開発、医療情報管理などの分野に注力する方針が示されています。
- ▶ BPO産業の直接的な雇用者数は約115万人ですが、2022年までに約180万人となる見込みです。相対的に高い技術を必要としない職種に従事する人の数は約4.3万人の減少となる一方、平均的なスキルを必要とする事業の雇用は約38.8万人増、高付加価値事業の雇用は約30.9万人増と試算されています。
- ▶ BPO産業に従事する労働者は若い年齢層が多いことも一つの特徴です。同産業の安定的な成長は、雇用創出や所得向上を通じて中間所得層の拡大につながり、フィリピン経済の安定的な発展に寄与していくものと考えられます。

あのアニメもフィリピンで制作されていたのかも。

1980年代後半、日本の大手アニメーション会社の制作一部工程の受注を皮切りに、ディズニーのアニメ制作を手掛ける会社などが、フィリピンには存在しています。また最近では、ゲーム開発を受託する企業も成長しています。日本や世界で上映されている有名なアニメーションの制作を舞台裏で支えているのは、フィリピンのアニメーターなのかもしれません。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社は関係がありません。